

チーム えがお

【学校教育目標：たくましく生きる児童の育成】

・やさしい子 ・考える子 ・元気な子 ・やりぬく子



発行者：校長 岡田 達也

～ えがお かがやき がんばる 学校 おうえんだん「チーム北川」～



「朝自習」から「朝学習」へ ～ 基礎学力の定着に向けて ～



今日から、これまで取り組んできた「朝自習」を「朝学習」へと変更しました。具体的には、「朝の15分間を子どもが先生から指示された課題を自習する」というものから、「朝の15分間を先生と一緒に基礎学力の定着を図るために学習する」という内容に変更しました。その名も『スキルタイム』（読み・書き・計算の習得を図る時間）です。火曜日は漢字、木曜日は計算の反復練習に、全学年一斉に集中して取り組みます。

小・中学校では、①「基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けさせる」、②「知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む」、③「学習に取り組む意欲を養う」ことが求められています。その基盤となるのが「基礎学力」（①）と言われるものです。例えば、九九を覚えていなければ、それを活用した問題を解くことはできません。昔から大切にされた「読み・書き・そろばん」は、今でも大切だということです。こうした基礎学力は、子どもたちがこれから生きていく上でも大切な力とされています。その習得があってはじめて「活用」することができるのです。

スキルタイムのキーワードは、子どもたち一人一人が「集中して取り組む！」+「できるようになる！」ということです。この時間は、担任だけでなく、私を含め教頭ら他の教職員も各学級に入り指導（T.T指導：ティームティーチング）することにしました。子どもたちにとって「わかる」「できる」ことは重要です。それは、学習への意欲（③）につながるからです。2学期は、スキルタイムだけでなく、毎日の授業でも子どもたちの基礎学力の習得に力を入れていきたいと思えます。子どもたちは、自分一人で「できるようになる」と、自信をもって課題に取り組むことができるようになります。



【教育コラム】

「心の栄養」の話



みなさんご承知の通り、健康に生活していくためには、「栄養」を取ることが欠かせません。身体の栄養はよく知られていますが、もう一つ「心の栄養」を取ることととっても大事です。心も、身体と同じように「栄養」を吸収することで、成長したくましくなっていきます。育ち盛り子どもたちには欠かせないものです。

それでは、心の栄養とは何でしょうか。いろいろな栄養が考えられますが、大まかな言い方になりますが、私は①「楽しい」と思うこと、②「ほっと」すること、③人から認められること、と思っています。楽しいことをすれば気持ちがスカッとし、元気になります。ほっと安心できると、心が癒やされます。そして、自分の言動を人から認められると気持ちよくなり、自信につながります。

これまでも何回かお話してきましたが、「自信」をもつことは素晴らしいことです。「自信」とは、えらそうにすることではなく、「自分もすてたもんじゃないぞ」「がんばってるね」と、自らを認め信じる力になります。自信は、友達や先生、保護者のみなさんからほめられたり、認められたりする中で、育つものです。

また、言うまでもなく「栄養」は人が成長する過程で、常に消費されるものです。心の栄養も同じです。何かをがんばる、いやなことや辛いことに出会う、いろいろと気を遣うことで、自分も気付かないうちに心の栄養は消費されていきます。その程度が大きければ大きいほど、消費量は高くなります。身体の栄養がなくなれば、人はやがて動けなくなります。心の栄養も同じです。

ただし、心の栄養は子どもによって様々であるということも忘れてはいけません。その子、その子に合った心の栄養を見つけなければなりません。心の栄養は、子どもだけでなく「大人」にも必要だということも忘れてはいけませんね。